

# 管内の百名山 「皇海山」



鋸山から皇海山頂上部を望む

水系は、利根川水系の渡良瀬川源流部に位置づけられ、山頂一帯に生い茂る、コメツガ、ミズナラ、ダケカンバ等の森林に降った雨は、松木沢、松木川となり、渡良瀬川に注いでいます。

この松木川流域は、足尾銅山の亜硫酸ガスによる被害が最も顕著であった区域で、皇海山の中腹からは、今でも赤茶けた岩肌をとどめる松木溪谷を遠望することができます。

栃木県側からの登山ルートは、温泉地である銀山平から、庚申山（1,901㍍）、鋸山（1,999㍍）を経由して皇海山に至ります。

険しさゆえに、このルートで皇海山に至る登山者はまれですが、登山口から庚申山までは、国の特別天然記念物に指定されているコウシンソウ自生地が所在すること、また、沿線に七滝等の景勝地があることから、6月から7月にかけてのコウシンソウの開花時期には、多くの登山者が訪れます。

日光森林管理署では、日光国立公園の特別保護地区に指定されている頂上部等は、原生的な森林の維持、下部の松木川流域は、治山事業による緑化と状況の監視による国土保全、登山口周辺は、七滝や銀山平にレクリエーションの森を設定することによる森林空間の利用と、森林の状況に応じた取り扱いを図っていくこととしています。

（日光森林管理署 広報広聴連絡官）

皇海山（標高2,144㍍）は、栃木県北西部の足尾山塊の主峰で、群馬県との県境に位置しています。

頂上部の稜線は、東西に長く伸びており、この形が、こうがい（昔の髪をとかす道具）に似ていることが、山名の由来とされています。

現在は、群馬県沼田市側から日帰りで登頂できるようになりましたが、栃木県側からの登山ルートは岩場が連続し、その険しさから、関東地方での最後の秘境と呼ばれていました。



皇海山中腹より松木溪谷を望む



岩場に咲くコウシンソウ